

府立福泉高等学校  
校長 綾井 俊行

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

「見せつけろ！己の底力」「No Limit 福泉」のスローガンの下、  
実社会とのつながりや体験的な学びを重視して、次代を担う良識ある社会人として行動できる人材の育成をめざす学校。

#### 【めざす生徒像】

- 1) 「夢の実現に向けて意欲的にチャレンジし、努力を惜しまない生徒」の育成をめざす。
- 2) 「学校、社会のルールを守り、集団生活のなかで他人を思いやり、協力することができる生徒」の育成をめざす。
- 3) 「自分の能力や興味を発展させるために、学校生活に積極的に取り組む生徒」の育成をめざす。

### 2 中期的目標

#### 1 「学び続ける力」の育成

- (1) 「分かる・できる授業」による「基礎力」の定着をめざす。
  - ・少人数・習熟度別授業、モジュール的ミニ教材、I C T等の活用と継続的な授業研究による系統的・効果的な教科指導の確立をめざす。
- (2) 「受動的な学び」と「能動的な学び」との併用による学習意欲の向上、学習内容の深化をめざす。
  - ・体験的学習、進路希望や興味・関心を踏まえたコース制・選択科目、I C T等の活用方法等、授業内容・方法等を再点検しながら授業研究を進め、カリキュラム全体の改善・充実を図る。

#### ※3年後の指標（27年度実績）

- ・入学した生徒の卒業率：93%（87%）
- ・授業アンケート「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」共に3.0以上維持（2.9）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「授業はわかりやすく工夫されている」：80%以上肯定（71%）

#### 2 「未来を切り拓く力」の育成

- (1) 教科・総合的な学習の時間・特別活動等を活用したキャリア教育の更なる充実を図る。
  - ・大学や企業・外部講師等を活用した体験的な学習（インターンシップ、体験型進路説明会等）を継続・発展させ、社会への視野を広げ、生徒の進路意識の向上をめざす。
  - ・カリキュラムマネジメント（再点検・改善）と連動させて、入学から卒業、さらに将来を見通したキャリア教育の確立を図る。
- (2) 各種検定、大学進学対策室による進学講習等、生徒の能力の発展や進路実現に向けた取り組みをさらに進める。

#### ※3年後の指標（27年度実績）

- ・年度末進路決定率100%（97.8%）、学校斡旋就職[一次合格率75%以上維持（77.9%）]
- ・進学者数140名（117名）、四大進学者数40名（25名）、漢検・英検3級以上の合格者8名（2名）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）：「将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある」85%以上（75%）

#### 3 「他者と協働できる力」の育成

- (1) 将来の社会人・職業人を見据えた全教職員による生徒指導により、規範意識の醸成と自律的行動力の育成を図る。
  - ・「励まし育てる」精神を大切にしつつ、あいさつ、マナー、遅刻、身だしなみ等、日々生徒と向き合う指導を大切にする。
  - ・家庭との連携協力体制を確固たるものにするため、丁寧できめ細かな情報の共有を進める。
- (2) 家庭・地域等と連携して安全で安心な学校づくりを進め、生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上を図る。
  - ・保健部を核とした教育相談・生徒支援体制づくりを進め、いじめ、ネットトラブル、不登校、体罰・セクハラ等の早期発見と適切な対応につなげる。
  - ・S C、S S Wや関係機関との連携を深め、教職員の対応力の向上を図る。
  - ・P T Aや地域との交流活動（防災教育・ホタル鑑賞会・農業体験等）やきめ細かな情報提供を通じて、開かれた学校づくりを進める。
- (3) 生徒会活動・部活動などを通じて、社会とかかわる実践的な行動力の伸長を図る。
  - ・学校行事・学年行事、ボランティアや地域との交流活動等の改善・充実に努める。

#### ※3年後の指標（27年度実績）

- ・遅刻総数12,000件（18,000件）、部活動加入率35%（26%）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「学校の決まりやルールは適切である」85%以上（79%）  
「学校の決まりやルールをよく守っている」教員回答とのギャップを半分以下に（42ポイント差）  
「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」85%（76%）  
「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」85%（75%）  
「部活動や生徒会活動は活発だ」教員回答とのギャップを半分以下に（29ポイント差）

#### 4 「信頼される学校」・「進化する学校組織」の構築

- (1) 校内授業研究、O J Tに加えて、中学校や他の高校、関係機関等との連携・情報提供を計画的に進めて、教職員の力量アップを図るとともに、本校教育への信頼度アップにつなげる。
- (2) ミドル層を核とした、メンター制による教職員の育成支援や業務の協働を促進する。
- (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成を図る。
  - ・O J Tによる、校内情報ネットワークの活用、生徒支援、分掌業務の中核となる教員の育成を図る。

#### ※3年後の指標（27年度実績）

- ・入学者選抜の志願倍率 1.1倍（1.04倍）
- ・学校自己診断各項目について、生徒・保護者・教員のギャップを10ポイント未満（20ポイント以上数項目）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成２８年１２月実施分〕	学校協議会からの意見
<p>○生徒の肯定的な回答（前年度回答）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「授業はわかりやすく工夫されていると思う」72%（71%）</li><li>・「学習の評価はテストの成績だけでなく、日頃の努力や取組等も含まれていて納得できる」78%（77%）</li><li>・「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」77%（75%）</li><li>・「成績や個人情報などのプライバシーが守られている。80%（79%）</li></ul> <p>☆学習環境や安心安全な生活環境については上記以外の項目も一定の誤差の範囲内で推移しており、環境整備に一定の基盤ができつつある。</p> <p>○生徒・保護者・教員で回答に大きなギャップがあった項目</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「先生や学校は進路指導をしっかりとやっている」（83%・73%・84%）</li><li>・「学校の決まりやルールをよく守っている」（83%・82%・30%）</li><li>・「生活指導において、家庭との連携ができている」（―・74%・91%）</li></ul> <p>☆ギャップの差は情報発信力の弱さが根本にあると思われる。保護者と学校の連携・情報共有をより確実に丁寧にすることが求められる。また、教員の授業展開や情報提供の在り方、要求水準の設定等は昨年度に引き続き本校の課題として不断の点検が必要である。</p>	<p>第１回（６／２０）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・静かにして目立たない子への目配りをお願いしたいです。</li><li>・電子黒板の利用はなかなか良かったです。音楽の授業は素晴らしかったです。</li><li>・想像していたよりも授業風景はずっと落ち着いていました。</li><li>・挨拶が誰にでも自然にできる生徒がもっと増えるといいですね。</li><li>・学校のスローガンについて、生徒の立場からの言葉がスローガンなどに盛り込まれるのもよいと思います。</li></ul> <p>第２回（１０／２９）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・HPの校長ブログには、たくさんの部の活動状況の報告と生徒たちへの激励の言葉があった。生徒たちへのきめ細かいまなざしとスチューデントファーストという言葉が感じられた。この後の文化祭見学も楽しみだ。</li><li>・卒業生が次々に先生たちに声をかけていて、見ていてほほえましかった。</li><li>・教室での展示にもっと工夫をしたらいいと思う。</li><li>・文化祭のような楽しい学校行事だけでなく学校生活全般にわたって、生徒たちのモチベーションがもっと上がればいいと思う。生徒のモチベーションと先生のモチベーションは連動すると思う。先生たちのやる気をもっと向上するような取り組みが何かあったらいい。</li></ul> <p>第３回（３月２３日）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「学び続ける力の向上」の部分では評価が向上しており、その他の部分でも目標値に届かなかったという理由で抑え気味に評価されているが、数値的に昨年を上回っている部分も多くあり、頼もしく感じる。</li><li>・数値の横ばいは一見駄目な印象を与えてしまうが、一般的に言って右肩上がりの向上というものは、そういつも達成できるものではない。</li><li>・普通の「普通科高校」がずいぶん減ったので、普通科高校の本流を歩んでいくのも悪くないと思う。</li><li>・（若手教員の振り返りを聞いて）先生方の業務の多様化がどんどん進んでいく中、皆さん「担任の仕事ができてよかった」と述べられていて、とてもうれしく思う。</li><li>・おとなしく控えめな生徒にもっと目をかけてやってほしい。返事がなかったり反応がはっきりしなくても、授業でもそれ以外の場でも声掛けをしたり、ちょっとした活躍の場を与えてもらえたら、その子はきっとうれしくなると思う。</li></ul>

３ 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学び続ける力の育成	(1) 「基礎力」の定着  (2) 学習意欲の向上、学習内容の深化	(1) スモールステップや学びのユニバーサルデザインを意識して、ＩＣＴ機器、資料の活用など、「わかる授業」を工夫する。  (2) 校内初任研を核に他の教員を巻き込みながら、ＩＣＴの活用や授業方法等、授業研究を進める。	(1) (2)  ・授業アンケートの「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」共に3.0以上(2.9)  ・自己診断「授業はわかりやすく工夫されている」75%(71%)	(1) (2)  ・授業アンケートの「興味…」「知識…」は、ともに前年2.9であったが、今回、「興味…」3.01、「知識…」3.03と目標を上回った。(◎)  ・自己診断（生徒）では、「授業がわかりやすく工夫されている」が75%で目標達成。(○) 次年度も「授業」の工夫を、組織として継続的に取組むことが当たり前の環境作りを行っていく。
未来を切り拓く力の育成	(1) キャリア教育の更なる充実  (2) 生徒の能力の発展や進路実現に向けた取組み	(1) 企業・大学等外部機関との連携を進め、体験的な学習を核に、進路意識の向上を図る。  (2) 考查や休業期間等の更なる活用等を工夫して、進学講習等の取組みを進める。	(1) 自己診断（生徒）「進路や生き方などの学習機会」生徒肯定的回答3％up(71%)  (2) 進路決定率100％(97.8%) 学校幹旋一次合格率75%維持(77.9%) 四大進学者30名(25名)	(1) 71%→73%。微増ではあるが、目標の3％upに届かず。「考える機会がよくある」の肯定的意見を減らさぬよう、一層の努力が必要と認識。(△)  (2) ・進路決定率は、98.7%(97.8%)で昨年を上回った。しかし、目標の100%に達せず。(△) ・学校幹旋一次合格率75.6%(77.9%)で、当初目標の75%維持はクリア。職種の偏りが背景にあると分析。(○) ・四大進学者28名(25名)で増えるも目標の30名に届かず。(△)

府立福泉高等学校

他者と協働できる力の育成	<p>(1) 規範意識の醸成と自律的行動力の育成</p> <p>(2) 生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上</p>	<p>(1) ア. あいさつ、各種マナー、遅刻・服装・頭髪等、家庭と連携を密にして、全教職員による粘り強い指導の継続</p> <p>イ. SNSに係るトラブル防止に向けた啓発</p> <p>(2) ア. 保健部・教育相談委員会等を核に、SC・SSW等との連携を進め、中退やいじめ等の防止、丁寧な対応に組織的に取り組む。</p> <p>イ. 部活動や行事等、活動の様子等を掲示するコーナーやWeb ページの更なる充実など、生徒の頑張っている姿を更にPR</p>	<p>(1) ア. 遅刻 10%減(18,000件)及び生徒指導事案や苦情への即応</p> <p>(2) ア. 自己診断（生徒）の「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」、「いじめに、しっかり対応してくれる」共に 80%(75%、76%)</p> <p>イ. 公式戦出場部員のキープをめざし、部活動加入率 30%(25%)</p>	<p>(1) ア. 遅刻件数は 16,500(18,000)で 9.2%減を実現。目標の 10%減には届かなかったが、確かな手応えを感じている。生徒指導事案や苦情への即応も改善されつつあり、教員の粘り強い指導が反映されているものとみている。(△)</p> <p>(2) ア. 自己診断数値は、「悩み…」77%(75%)、「いじめ」75%(76%)でほぼ昨年と同じ数値となる。複雑な家庭環境に置かれた者も少なくなく、網の目から零れ落ちぬようにしていきたい。(△)</p> <p>イ. 部活動加入率は、24.2%(25%)で目標に届かないばかりか、昨年度を下回った。とりわけ1年生の加入率がほとんど伸びておらず、丁寧に原因を検証し、対策を講じる必要を感じている。(△)</p>
信頼される学校、進化する学校組織の構築	<p>(1) 教職員の力量と本校の信頼度アップ</p> <p>(2) 教職員の育成支援や業務の協働を促進</p> <p>(3) 校務運営を継承発展させる教員の育成</p>	<p>(1) ア. 授業研究・生徒対応研修等の定期的開催</p> <p>イ. 保護者・地域等への情報提供・情報収集内容・方法の再検討</p> <p>ウ. 個人情報の管理等、コンプライアンス意識の向上・業務等の再確認。</p> <p>(2) 校内初任研とミドル層の校内研修とを連携させるなど、若手教員の育成支援や学校運営への参画を図る。</p> <p>(3) 前任者等と協働しながら、業務内容の改善や新たな体制づくりを進める。</p>	<p>(1) ア. 各学期程度に開催</p> <p>アイ. 中学校等と連携した研修の複数回開催、多様な形態の広報活動の工夫</p> <p>ウ. 定期的な確認や研修の実施</p> <p>(2) ・各学期程度の開催</p> <p>・他校視察等を奨励し、初任者各自最低1回は校内で研修発表の場を設定。</p> <p>(3) ノウハウ等の継承に向けた体制や資料の整備ができたか。</p>	<p>(1) ア. 授業研究は、若手教員が中心となって積極的に授業を公開しており、全体的に改善を行う雰囲気醸成しつつある。また、生徒対応研修等も実践をとおして各自各所で適宜行われており、一定のレベルアップにつながっている。(○)</p> <p>イ. 中学校の見学研修を実施。1週間の期間を設けて、30名強の教員が広報も兼ねて参加。(◎)</p> <p>ウ. 定期的な情報共有と確認はもとより、機会を見つけては自己研鑽の訴えを実施。(○)</p> <p>(2) ・各学期程度の校内研修開催は実施。(○)</p> <p>・他校視察は、若手から中堅までの教員が「泉鳥取高校」(5名)と「和泉総合高校定時制」(12名)を視察。中学校では近隣の「福泉中学校」にベテラン勢も含めて 30 名を超える教員が視察に訪れた。初任者の視察発表も好評。(◎)</p> <p>(3) 新体制作りに向けて準備中。(△)</p>